

《入選》

コロナ禍での出来事

彦根中学校 1年

みずの ゆめ  
水野 結萌 さん

二〇二〇年から二〇二一年にかけて世界で新型コロナウイルスが大流行した。日本でもコロナウイルス感染者や死亡者がたくさん出た。そんなコロナウイルスが流行している中で特にひどかったのは偏見や差別だと私は思う。ニュースや周りの大人から聞いた偏見や差別の中で特に衝撃を受けた二つの話がある。

一つはニュースで見た話だ。電車の中でせきをした人に対して

「電車から降りろー!」  
と、ひどい言葉をあびせた人がいたのだ。そのニュースを見た時はまだコロナウイル

スが広がりはじめたばかりで、私の地域では感染者も少なかったため、

「ひどい人もいるんだな。ぐらいいにしか感じなかった。コロナの中での生活に慣れてきた今になって思う。もし

かしたらその人はただ花粉症だっただけかもしれないし、何も悪くなくても息がつかまってしまっただけかもしれないな。しかし、治療方法が見つかっていない新型コロナウイルスが流行しているために、勝手に悪者扱いされるのはおかしいはずだ。

「もしかしたらあの人、何かの病気なんじゃないの?」  
という偏見によって誰かが傷つく。このニュースを思い出すと、私も偏見の心を持ってしまっていることに気づいた。

「あの人絶対どこか悪いんだ。」  
とか、

「あの人って悪いうわさしか聞かないし嫌だな。嫌いだな。」  
と、思ってしまったている自分がいたのだ。

二つ目は、コロナ感染者に対しての差別だ。感染した人を罵ったり、その人の家に落書きをしたりしている人がいたと祖父や祖母に聞いた。

この話を知って初めて本当の人間の怖さを感じた気がした。いつ、誰が感染してもおかしくないこの状況で、感染者を差別し、嫌がらせをするなんて考えられないと思っただからといって、人を傷つけることは絶対にあつてはならない。自分がその人の立場だったら、

「何でこんなに差別されなきゃいけないんだ。つらいよ。」  
と感じるだろう。自分がされて嫌なことは人にはしない

というの、このことだろうとしっかりと理解した。

コロナ以外での偏見や差別だってまだたくさんあるし、コロナによる差別も無くなっているわけではない。これからの私たちが社会で生きていくなかで大切なのは、偏見の心をなくすことと、自分がされて嫌なことは人にはしないということだ。偏見の心を持つたり、人に嫌なことをしたりすると、絶対に誰かが傷つき、それが差別につながるっていくのだと思う。

「自分自身ができることを考え、行動に移す。たくさんの人と関わり合いそれぞれ個性を受け入れる。」

これが、私の目標だ。みんなを変える前に、まずは自分の心を変えたい。一人が偏見や差別の心を無くせば、周りの人も自分の心や差別と向き合っていくだろう。